



宗谷管内における農作業事故の特徴と対策

～令和6年度農作業事故報告書から～

毎年、北海道農作業安全運動推進本部のホームページ（<https://agr-anzen.jimdofree.com/>）に農作業事故報告書が掲載されています。ここから令和6年度の宗谷管内における農作業事故の特徴と対策について解説します。

1. 道内平均に比べて男性で2.4倍、女性で3.4倍多く発生

令和6年度の宗谷管内における死亡事故は男性1件、負傷事故は96件（男性61件、女性35件）発生し、道内平均に比べて男性で2.4倍、女性で3.4倍多く発生しています。これは、酪農地域（宗谷、根釧地域）において乳牛を原因とした事故が多いことが関係しています。また、道内では飼料給与ミキサーの巻き込まれによる死亡事故が2件発生しました。

2. 男性30代、女性40代が多い

就業者数に対する負傷事故の発生割合で見ると、全道と比較して宗谷は男性では30代、女性では40代が多いことが特徴的です。30～40代は体力があり、牛の扱いに慣れた年代であるため、油断や過信、あせり、イライラ、いつものことなどが原因になっているかもしれません（図1）。

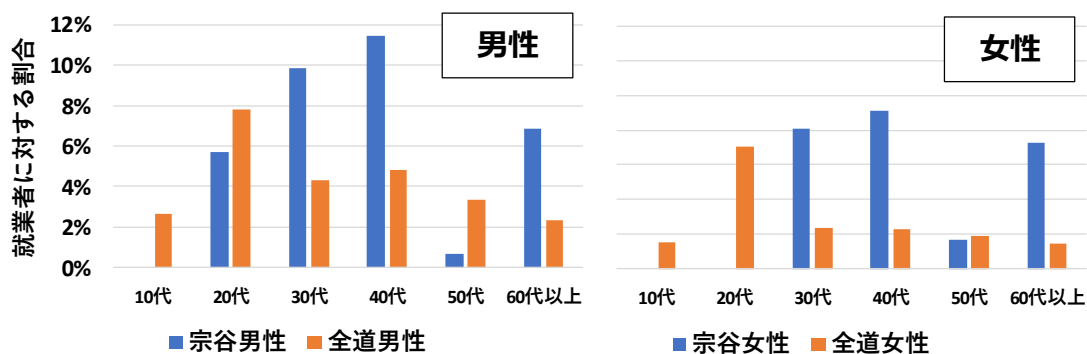


図1. 宗谷管内における年齢別の農業就業者あたりの事故件数の割合

3. 男性では6月と11月、女性では10月に事故が多い

宗谷管内の時期別の割合では、同じ酪農地域である根釧地域と比べると、男性では6月と11月、女性では10月から冬期間に事故が多いことが特徴的です。特に10、11月は急激に日が短くなることから、朝、夕の暗くなる時間帯で発生していると考えられます。

これらのことから、牛による事故を減らすためには、牛舎内の作業環境をチェックして、問題がある場所を改善し、事故のリスクを減らしていくことが重要になると考えられます。

30～40代、10・11月は要注意
事故の要因の一つは牛舎内が暗いこと

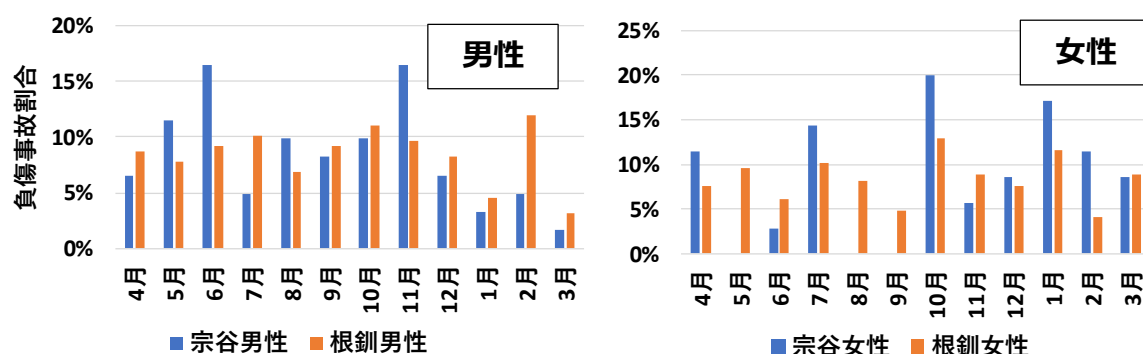


図2. 宗谷管内における時期別の事故件数の割合

4. 牛舎内における作業環境のチェック項目と対策

	チェック	チェック項目	対策
作業動線		暗くて作業しづらい場所や見通しの悪い場所がないか（特に冬場の夕方の搾乳時）	LED電灯、センサーライト等で見やすくする
		段差、滑りやすいところ、躓きやすいところなど、転倒しやすい場所はないか（結露）。	蛍光・スリップ防止テープ等を貼る
		出入や歩行の妨げとなるような物・配線等が床に置かれていないか。	定期的な清掃、使った物は所定の位置に戻す
設備・道具		設備（ゲート・ドアなど）を壊れたまま、または応急修理したまま使用していないか	修理して、作業の負担をなくす
		壊れたり・破損している道具をそのまま使用していないか（壊れたキックノン、ほつれたロープ）	扱いやすい道具に買い換える
		無理な姿勢で作業しなければならない場所があるか（背伸びしながら高い位置で作業するなど）	安全に作業できるように作業方法を改善する
安全管理		底の溝が無くなった作業靴、裾締りの悪い、ボタンがとれている作業服等で作業していないか	身の安全を守る靴・作業着にする
		道具でないものを道具として使っていないか（鉄棒を曲げてフック代わりにしているなど）	用途に合った道具に切り替えて作業性を良くする
		事故が起きたときにすぐに連絡・治療できる体制になっているか	1人作業時は事前連絡、応急措置法の習得
牛の取り扱い		危険な牛を家族・従業員間で共有しているか（搾乳・移動作業前に確認できているか）	ホワイトボード、携帯などで共有する
		育成牛（初妊娠牛）を分娩前から人や繋ぎ飼い牛舎に馴致しているか、優しく接しているか	馴致期間を設ける。声か掛けながら接する。
		移動経路が複雑で、牛を強く押したり、強く引っ張ったりしなければならない場所はあるか	後ろから追うだけで移動できるようにする

※チェックに○、×を記入し、×の場合は、いつまでに何を実施するか決めましょう。

チェックリストの「×」（作業環境の問題）の改善と油断・焦り・イライラがないように作業手順を見直すことが牛による事故防止につながります！